「家族≠住まい」一人生と共に歩むコレクティブハウスー



□コンセプト

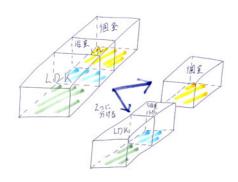
近年、日本の人口が減少していく中で、高齢化や単身者世帯の増加など、家族の変化や住み方が変化しています。そうした変化していく中で、住む場所も変化していかなければならないと考えました。コレクティブハウスという集まって暮らすというかたちが良いのではと考えました。家族の成長や変化など住む人に合わせて住まいのかたちも変化できるコレクティブハウスを設計しました。

□プログラム

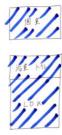
住まいのかたちを変化することのできるように、LDK水回りと個室とに2つに分けた住戸としている。住戸には移動のできる収納ボックス・カーテン・植栽を自由に使ってもらい自分の住みやすいようにしてもらう。全体を4つに分けてそれぞれにコモンルーム・半屋外スペース・中庭を設けている。

□デザイン

住戸の周りを全面窓ガラスとして、その周りをテラスで囲んでいる。住戸の床の色は4種類ある。屋根や柱、内装などは白色となっている。住戸の配置は高さを変えています。中庭は4つ共異なるかたちとなっています。敷地境界は生垣(アベリア)として出入り口は木目の扉となっている。









・住戸

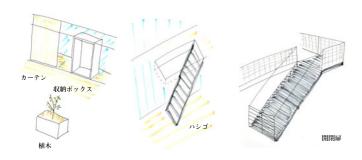
住む場所のかたちとして、上の図のように一般的な一体となっているかたちから、個室にあたる部分を分けます。それにより、例として隣の図ような変化が出来ると考えました。建物は、1つ1つを独立したかたちとしています。LDK 水回りを主として、個室を近くのを使ったり、離れののように離れた場所を使ったりと様々な使われかたが出来ると考えています。水回り部分はひとまとまりとしています。全面窓ガラスとし、その外側をテラスで囲み、室内と外との間にワンクッション置くことで全面窓ガラスでも暮らせるのではと考えました。全面窓ガラスにすることで、周りから閉じすぎてしまうこともなく、集まって住むというかたちに良いと考えました。また、自由に入り口を設けることが出来、住まい手の自由な部屋つくりが出来ると考えました。周りのテラスには、収納ボックスや植栽を置く場所としても使います。敷地いっぱいに住戸を配置し、隣同士の距離が近いため、建物にレベル差をつけ、目線を変えています。

・可変の仕組み

暮らしていく上で、家族の変化や住み方が変化したりするのに対して柔軟に組み替えが出来るような仕組みとして可変要素を考えました。

1つ目は、収納ボックスです。窓のサッシにサイズを合わせています。建物内外と同じ仕上げの白塗り・鉄板・木目の3種類のパターンの仕上げを用意し、室内外間わずに使えるようにと考えました。2つ目は、植木です。木は、オリーブで2m前後とし鉢は白塗りです。3つ目は、カーテンです。色はベージュで統一しました。4つ目は、ハンゴです。建物内でも繋がれるようになり、2階から屋上への移動用としても使えます。5つ目は、開閉扉つき階段・連絡通路です。あらかじめ可能性のありそうな部分に通路を作り開閉扉を付けることで移動の可能不可能を出来るようにしています。

最初からこれらのものを、備え付けにし、固定してしまうと決められたかたちから変えることが出来なくなります。また、人それぞれブライバシーの領域が違うと考え、可変の仕組みを取り入れて、住む人が自分で決められるようにしました。



・コモン

全体で、住戸が36戸分あり全員が1つのコモンルームに集まるようにすると、大きな建物となり敷地内において中心となってしまうため、4つ分けました。10・8戸でひとまとまりとして、ひとまとまりに1つのコモンルームを設け、なるべく住戸と同じようなかたちにして周りに溶け込むようにしました。また、半屋外のコモンスペースと中庭を設けました。中庭には4つそれぞれにシンボルとなる木を1本づつ植えています。これらは、敷地である都筑区の木となっているものです。また、中庭はコモンルーム・スペースのすぐ近くの場所にそれぞれ配置しています。全体のコモンスペースとして広場を設けています。

